

建築概論 特別演習

08

自分だけの想像できる空間、場所、環境を創ろう。

開講年次：学部1回生 前期

[担当教員]

大谷弘明（神戸大学客員教授／日建設計執行役員）

遠藤秀平（教授）

[準備補助]

浅井 保（助教）、山口秀文（助教）、高麗憲志（技術職員）



「建築」のかたちは頭の中の思考から出でてくるものであるとは限らない。多くの場合、手を動かし続けて、その形にならない状態を積み重ねる中から生まれてくるものだ。次に、同じ立体であるのに建築と彫刻の違いは何だろうか。彫刻は眼に訴えるオブジェであるが、建築はオブジェであるだけにとどまらず、その内側に人が入ることによって、「空間」を体験することができる。ここが大きく違う。また人間のサイズに較べて大きなスケールを持っていることが多く、建築が集まることによって家並みをつくり、街並みをつくり、都市となる。一個の建築をつくっていくことには、常に無限の可能性が秘められている、と皆さんは知ることが出来る。

ともあれ、皆さんはまずは身近なところから始めてみよう。つまり自分の手の中から生まれ出る可能性に賭けてみよう。自らの夢を膨らませるところから始めよう。おそらく小さい頃からものづくりが得意だった人も多いはず。無心の子供の絵がうまい！と思えてしまうのと同様、皆さんが今回試してみた立体構成に、それぞれの「建築」の萌芽が発見できた。皆さん自身がこの原初体験を通じて、自分が秘めている可能性を再発見してもらえば幸いである。（大谷弘明）



作品制作風景



選ばれた作品について一人ずつプレゼンテーション

■演習課題

みなさんはこの4月に栄えある建築学科に入学されました。

これからは建築の専門家教育を学ぶことができます。

みなさんは日頃、建物をどんなふうに見てていますか。

これから先には、すべての人におどろくべき未知の建築体験が待ちかまえているはずです。

きょうは、みなさんといっしょに建築空間とはなにものであるか、いっしょに考えたいと思います。

ただ考えると言っても、頭で考えるではありません。手を使って、手を動かしながら考えようともいます。

建築とはオブジェではありません。建築とは空間で成立っています。人間を取り巻くすべてが空間であると言っても過言ではありません。

たった2時間半（150分）の課題ですから、テーマは単純です。

『自分だけの想像できる空間、場所、環境を創ろう。』

映画の中、夢の中、居心地の良い場所の体験、大自然のなかで感じることなど、

みなさんの頭の中にあるさまざまな空間イメージを引き出しながら、それを実際の立体にしてみましょう。

考えながら形にし、実際に組み上げて、出来上がりをまわりと比較し、見て、感じて、批評しあうこと。

これなどがすべて建築的な『体験』の事始めになります。言い換れば『原体験』となります。

オリジナリティあふれる独創的な自分だけの空間をできるだけ形にしてみましょう。

・日 時 7月 25 日（金）1、2限（8:50～12:10）

・場 所 鶴甲第一キャンパス K棟 K401

・時間配分 事前の説明 8:50～9:10

製作時間 9:10～11:40

講評 11:40～12:10

・材料

目の前に用意されているケント紙、はさみ、テープをつかいます。

・持参してほしいもの

各自の必要を考える、定規、カッターナイフ、カッターマット、糊ほか自由。

*製作のスケールは自由です。人型の切り抜きをひとつつくり、自分のつくった空間の中に配置しましょう。



作品講評風景

学生作品